

麗澤大学経済学会懸賞論文執筆要領

麗澤大学経済学会主催の学内懸賞論文(以下、懸賞論文)への投稿については、以下の内容に準拠して執筆すること。

(使用言語)

1. 懸賞論文への投稿は、日本語または英語のいずれかとする。

(書式と字数制限)

2. 懸賞論文への投稿は横書きとする。
3. 上記投稿はワードプロセッサにより作成する。日本語による投稿は A4 版用紙 1 枚 1,722 文字(=42 文字×41 行)とし、15 枚を上限とする(25,830 文字)。英語による投稿は、ダブルスペースで 30 枚(1 枚 500words 程度)を上限とする。いずれについても、注、図、表、日本語要旨、英文アブストラクト、参考文献等を含めたものとする。

(体裁)

4. 投稿論文には通しのページ番号を中央下部ないし右下部に付ける。
5. 本文は章節項などで構成し、1、2.3、4.5.6 のような見出し番号とタイトルを付ける。

(表記法)

6. 日本語による投稿は新仮名遣い、常用漢字を用い、平易な口語体で記す。漢字の専門用語については、この限りではない。副詞、接続詞、連体詞、助詞は原則として平仮名、同音多義で誤読のおそれのあるものは漢字、送り仮名は活用語尾を送る。数字の書き方は、原則として、アラビア数字を用いる。成語・慣用語(句)・固有名詞、数量的意味のうすい表記は漢字とする。たとえば、一般的、一部分、第三者 などである。ただし、19 世紀、第 1 四半期などは例外とする。英語による投稿も自然で正確な表現を用い、ネイティブスピーカー等の校正を受ける。
7. ピリオド(.)、コンマ(,)は用いず、句点(。)と読点(、)を用いる。中グロ(・)は名詞並列の場合等に使う。欧文略字には J. M. Keynes のようにピリオドを用い、中グロは用いない。ただし、EC、IMF、OECD のようにピリオドを用いない表記が一般的な場合にはその慣例に従う。

8. 引用文は「 」を用い、“ ”(クォーテーションマーク)は欧文引用のみに用いる。

二重ヒッカケ『 』は、書名や重引用符に用いる。

述語および固有名詞の原綴りを書き入れるときは、パーレン()の中に欧文を記す。必要に応じてキッコー〔 〕、ブラケット[]を用いてもよい。

ダッシュは挿入句などの場合、2 倍のものを使う。

ハイフオン - またはダブル・ハイフオン = はシラビケーションのほか、複合語や外国固有名詞などに使う。

9. リーダー ... は中略を表す場合に使う。

10. 人名は原則として原語で表記する。ただし、広く知られているもの、また印字の困難なものについてはこの限りではない。

11. 数式は別行に記し、末尾に通し番号を付ける。文中で使用する場合には特殊な記号を用いず、 a/b 、 $\exp(a/b)$ などの表記法を用いる。数式は筆者による指定が重要であるので、複雑な場合は青色鉛筆で注意を書き入れてもよい。数字や記号にはイタリックが多いので、アンダーラインを朱記する。添え字(活字の格差)は、大、中、小と指定する。上ツキは a^e 、下ツキは x_y のように指定する。C、D、P、S、W など大文字と小文字の字形が同じものははっきりと区別する。ギリシャ文字 α (アルファ)、 γ (ガンマ)、 χ (カイ)、 ω (オメガ)と、アルファベットの a(エイ)、r(アール)、x(エックス)、k(ケイ)、w(ダブリュ)を区別する。

12. 本文中に注を付ける場合は脚注形式とし、ワードの挿入機能の脚注の「ページの最後」形式とする(自動的に通し番号が付けられる)。

13. 数字はアラビア数字で横書きし、三桁ごとにカンマ(,)を付ける。

14. 図および表(写真を含む)には、図 1、図 2、表 1、表 2 のように通し番号を付ける。

(参考文献)

15. 文中での文献等を参照する際には、著者名と発行年を次のような要領で本文中にカッコ書きする。

単著の場合、...といわれている(Krugman[1996, p.63])。

2 名の場合、...といわれている(Johnson and Kaplan[1987])、(津曲・松木[1972])

3 名以上の場合、...といわれている(Ono *et al.* [2003])、(小野ほか[2003])

同時に複数文献を参照・引用する場合、...といわれている(Cooper[1965] ; Young and Senior[1987])。→ アルファベット順の著者名。

...といわれている(中西[1962] ; 番場[1968] ; 溝口[1981])。→ 50 音順の著者名。

同一の著者の文献の複数引用の場合、...と主張する(Merchant[1968][1990][1995])、(速水[1964][1980][1997]) → 出版年順。

特定の文章部分を参照・引用する場合、...である(Keynes[1936, p.49])、(王[1995a,

pp.59-62]) → 著者名、発行年、ページを明記。

16. 文中で参照した文献等については、本文末に一括して掲載する。

17. 参考文献の掲載については、欧文和文を区別せず(欧文の部と和文の部に分け)、単著の場合には著者のアルファベット順、共著の場合には第一著者の姓によってアルファベット順とする。

18. 単行本については、著者名、発行年、表題、発行所をこの順で記し、書名を『 』書きする。欧文書については表題をイタリックにする。

19. 雑誌論文については、著者名、発行年、表題、雑誌名、巻号、ページをこの順で記し、表題を「 」、雑誌名を『 』書きする。欧文の雑誌名はイタリックにし、欧文、和文、単行本、雑誌論文を問わず、表題、書名、雑誌名等は省略しない。

20. 同一年度に同一著者による文献が複数存在する場合は、発行時の昇順で配列し、発行年に a、b、c...を付記する。

(記載例)

Atkinson, A.A., Waterhouse, J.H. and Wells, R.B. (1997), A Stakeholder Approach to Strategic Performance Measurement, *Sloan Management Review*, spring, 25-37.

Barou, Robert. J. (1996), *GETTING IT RIGHT*, The MIT Press, (仁科和夫訳(1977)『経済学の正しい使用法』、日本経済新聞社)。

Krugman, Paul (1996), *POP INTERNATIONALISM*, The MIT Press, (山岡洋一訳(1997)『クルーグマンの良いい経済学悪い経済学』、日本経済新聞社)。

Wernerfelt, Birger (1984), A Resource-Based View of the Firm, *Strategic Management Journal*, 5(2), 171-180.

今井賢一・小宮隆太郎編(1989)『日本の企業』、東京大学出版会。

浅沼万里(1997)『日本の企業組織 革新的適応のメカニズム』、東洋経済新報社。

津曲直躬(1985)『原価計算論講義』、中央経済社。

長谷川泰隆(2000)「内部過程のマッピング射程 - The Resource-Based View of the Firm からの概念整理 - 」『会計』第 157 巻第 6 号、68-82 頁。

林昇一・高橋宏幸編集代表(2003)『戦略経営ハンドブック』、中央経済社。